

# Compass

www.nikkenkyo.com

vol.782

2009/September

日建協

2009 年度

## 日建協の活動&本部役員

第 86 回定期大会

## 変わる意識と変える努力で 実現させようワーク・ライフ・バランス

日建協新旧議長対談 2009年度の活動にこめる想い

## 一步前進、さらに前進

～公共工事における無報酬業務解消にむけて～

## 加盟組合交流日誌

- ◇飛鳥建設労働組合 ◇大日本土木労働組合
- ◇大和小田急建設労働組合 ◇大鉄工業労働組合

トピックス ◇日建協のエコキャップ運動  
◇日建協共済制度 め切迫る!

新生ペンタユニオンを実現しよう—五洋建設労働組合

クロスワードタイム 他



# 2009年度 日建協の活動 &本部役員

😊:今年の抱負  
😊:あなたにとってのワーク・ライフ・バランスとは?



ふくしま 玲司  
議長  
飛島建設労働組合  
土木

😡 厳しい時代は、楽しい時代。楽しく働ける魅力ある産業の復活に向け、何でもかんでも声をあげていきます。

😊 一生懸命に働く仲間と一緒に楽しく仕事をすること。そして、子供の笑顔を見られる時間があること。



はらき 祐幸  
政策企画局長  
(労働条件)  
三井住友建設  
社員組合  
事務

😡 わたしたちのワーク・ライフ・バランスをめざして、組合員の皆さんとともに活動していきます。

😊 意識して働き方を見直すことで自分の時間を作り出し、仕事と生活のメリハリをつけること。



かみやま さとる  
上山 悟  
政策企画局長次長  
(産業政策)  
奥村組職員組合  
土木

😡 私たちの周りで起こっている色々な変化を、組合員の皆さんのワーク・ライフ・バランス実現につなげたい。

😊 仕事、家族、趣味、すべての時間を充実させること。そのためには何事にも前向きに取り組むことが大事だと思っています。



たけだ だいぞう  
竹田 大三  
政策企画局長次長  
(産業政策)  
東洋建設  
職員労働組合  
建築

😡 Are you ready? We're the Nikkenkyo! 活動の「一体感」と「ライブ感」を届けるために、アクセル全開で走ります。

😊 ワーク＝人が幸せになる「ものづくり」。ライフ＝微笑み。ワーク・ライフ・バランス＝微笑む人の数を増やすこと。



おおたしろ さとる  
太田代 哲  
事務局長次長  
(組織・広報)  
鉄建建設職員組合  
事務

😡 皆さんの労働条件向上への強い思いを実現するため、機を逃さず動く。「そつたく同時」でありたいと思います。

😊 「この土曜は去年仕事してたから今年絶対に休む!」家族と過ごせる休日はしつこくこだわって休むようにしています。



なかむら ゆうじ  
中村 雄二  
副議長兼  
政策企画局長  
(労働条件)  
ハザマユニオン  
土木

😡 建設産業を「WLBの実現した産業」とするため努力します。組合員が一丸となれば必ずWLBを実現できると信じています。

😊 仕事も大切に、また、子ども(1歳)と一緒にいる時間も大切にしたいと思っています。



てらうち さとし  
寺内 哲  
副議長兼  
政策企画局長  
(産業政策)  
戸田建設職員組合  
建築

😡 副議長として、悔いのないように。自分が日建協にいたんだという証しを、活動の成果として残していきたい。

😊 どんなに忙しい中であっても、生活面でのゆずれない線を常に念頭において、日々行動すること、かな。



なす こうじ  
那須 功司  
事務局長  
西松建設職員組合  
事務

😡 みなさんに「私たちの日建協」を強く感じてもらえるよう、活動の充実化と分かりやすい広報に努めます。

😊 仕事を充実させて生活もより一層充実!もちろんメリハリも大事にしながら。単純ですが、いつも相乗効果を意識しています。



つかもと ふくじ  
塚本 福二 事務局長

😡 雇用の確保、労働条件の向上があってこそそのワーク・ライフ・バランスであると思う。そのために頑張りたい。

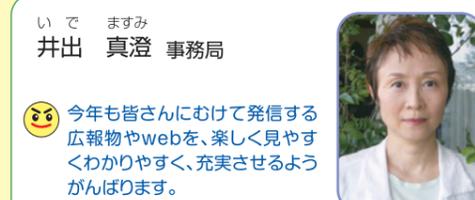
😊 生活・人生(ライフ)をより良くするための条件をつくるのが労働組合の役割だと思う。ワークでもライフでもより良い社会を目指して努力したい。



まつい ひさえ  
松井 久恵 事務局長

😡 皆さんの声を聞きながら、生活が、働く環境が、少しでも良くなるように、がんばりたいと思います。

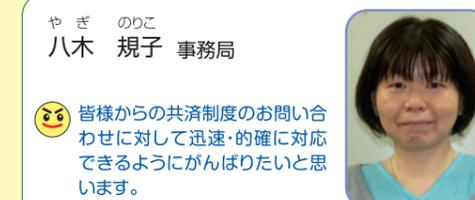
😊 ワークの仕事は集中して、ライフの家事は効率よくして、ライフの楽しみを増やして行きたいです。



い で ますみ  
井出 真澄 事務局長

😡 今年も皆さんにむけて発信する広報物やwebを、楽しく見やすくわかりやすく、充実させるようがんばります。

😊 メリハリのある生き方。仕事も生活も何でも楽しめること。どちらも心がイキイキしていることでしょうか。



やぎ のりこ  
八木 規子 事務局長

😡 皆様からの共済制度のお問い合わせに対して迅速・的確に対応できるようにがんばりたいと思います。

😊 仕事と生活公私のバランスを取る。そのために時間を有効に使っていききたいと思います。



いすた けいたろう  
出田 敬太郎  
政策企画局長  
(労働条件)  
シミズユニオン  
事務

😡 組合員のみなさんと将来の仲間がもっと笑顔で働けるように、建設産業の活性化に向けて、微力ながら明るく頑張ります。

😊 家族との時間を有意義に過ごし、生活が充実するように、仕事もメリハリをつけて取り組んでいます。



てらだ けいたろう  
寺田 慶太郎  
政策企画局長  
(産業政策)  
フジタ職員組合  
建築

😡 「日建協って何?」とよく聞かれます。新任につき学習しつつ、分かりやすい情報を加盟組合の皆さんに発信する事です。

😊 建築系外勤で単身赴任が今まででありました。「家族とふれ合う時間」を充実させたいと思います。



えんどうじゅんいち  
遠藤 淳一  
事務局長  
(組織・広報)  
ペンタユニオン  
事務

😡 加盟組合のみなさんから愛され、信頼される日建協をめざして、組織力の更なる強化に取り組んでいきます。

😊 仕事のスケジュールを週毎に見直して自分の時間を確保しています。私の充実無くて人生の充実はないですからね。仕事も家庭も友人もゴルフも釣りもビールも全部大事!

8月3日、8月4日の両日、東京(日暮里)のホテルラングウッドにおいて日建協第86回定期大会を開催しました。2009年度の日建協活動のスタートとなる本大会には加盟組合から代議員と多数の傍聴者が出席し、活動方針について活発な議論が交わされました。

## 『最後のワンピースを見つけるのは私たち』

本大会をもって退任された青本前議長は、2年間の任期を「負のスパイラルを食い止めるため、従来型の労働組合活動からの方針の転換、新しい行動セオリーの選択に迫られた時期であり、個人の仕事と生活を適正値に調和させていくべく時短推進活動をワーク・ライフ・バランス実現のための一手段として位置づけ、加盟組合の皆さんのご理解と協力のもと活動を行ってきた」と振り返りました。

続いて「今起きている労働環境向上への変化を実現するために必要な最後のワンピースを見つけるのは私たち一人ひとりである」とし、最後の挨拶を締めくくりました。



青本前議長挨拶

## 2008年度活動報告

2008年度の日建協はワーク・ライフ・バランスの実現と魅力ある建設産業の実現のため「建設産業の構造的な課題解決にむけた提言活動」と「わたしたちの労働条件向上にむけた加盟組合支援」を二本柱として活動してきました。大会では精力的に取り組んできた2008年度の活動と決算報告について審議が行われ、可決・承認されました。

## 新体制で2009年度の活動がスタート! 『今こそがチャンス』

2008年度の活動承認後、2009年度執行委員の選挙が行われ、新執行委員が選出されました(新執行委員については2・3ページをご参照下さい)。

選挙後には、新執行委員11名を代表し、2009年度日建協活動の新たな牽引役を担う福島議長より「ワーク・ライフ・バランス実現に向けて自分の働き方を見直す意識改革の必要性」「個々人の考え方を組合を通じて計画立て、実現させていく新しい形の連帯意識の向上」「建設産業内との連携を重視していく」という方針が発表されました。そして「ワーク・ライフ・バランスの実現した産業の形こそが魅力ある建設産業である。新しい建設産業を私たち労働者が導いていこう。外的変化の激しい今こそがチャンス。」と加盟組合員に向けて力強く熱いメッセージを発信しました。



福島議長挨拶



大会の様子

### ●大会議長団



長野代議員  
(ペンタユニオン)



稲垣代議員  
(大豊建設労働組合)



長尾代議員  
(戸田建設職員組合)

### ●分散会主査



小林代議員  
(西松建設職員組合)



杉浦代議員  
(ピーエス三菱労働組合)



山川代議員  
(名工建設職員組合)

福島議長の就任挨拶の後、新執行部より2009年度の活動方針の説明を行い、大会初日が終了しました。

大会2日目は3つの分散会に分かれて、前日に説明のあった活動方針に対する熱心な討議が行われたのち、全体会議にて2009年度の活動方針に関する議案と予算が審議され、可決・承認されました。

### ●アシスタントのみなさん

左より:  
萩原豊美さん  
(銭高組労働組合)  
鈴木智草さん  
(ペンタユニオン)  
萩原由美子さん  
(飛鳥建設労働組合)  
内田舞さん  
(ペンタユニオン)



## 名刺交換会

大会に引き続き、多数の来賓の方々から加盟組合の執行部出席のもと、ペンタユニオン鈴木智草さんの司会により名刺交換会が開催され、和やかな雰囲気の中、ご参加いただいた方々とともに新しい日建協の門出を祝いました。

2009年度の日建協活動スタートにあたり、福島議長の挨拶と来賓の方々から激励を込めた祝辞を頂戴した後、日本総合住生活労働組合の小井俊行中央執行委員長より「大会を通じ、熱い血潮が続いていくことを実感した。これからも一致団結して立ち向かっていこう!」という力強い挨拶が述べられ声高な乾杯とともに会は進行しました。

また、退任役員を代表して、在任中は加盟組合支援に尽力し日建協内外からの信望も厚かった林前局長より、これまで活動を共にしてきた日建協内外各組織の方々へ感謝の気持ちと今後の日建協への期待を込めた応援歌が贈られました。

最後に2009年度の日建協執行委員が一人ずつ自己紹介と今年の抱負を述べたのち、那須事務局長より、退任役員に対する労いの言葉と2009年度の決意表明を行い、名刺交換会は閉会されました。



小井 俊行 中央執行委員長  
(日本総合住生活労働組合)

## 日建協新年度の活動スタートに寄せて

「連合は今秋20周年の定期大会を迎えます。成人にあたる20年目においては大きな意識改革が必要です。単に時短を目指すのではなく、ワーク・ライフ・バランスという例図を意識しその目的を明確化する事によって、時短が実現できるものと信じています。私たちにとって景気の底打ち感はいまだ感じられません。ぜひ皆さんと連帯して働く者のための政策制度の実現を目指していきましょう。」

連合(日本労働組合総連合会)  
山口 洋子 副事務局長



「統一土曜閉所運動や出前講座の実施など、産業界の魅力化に繋がる日頃の日建協の活動について感謝します。厳しい建設産業にあってしっかりと品質を保つために、中心となるのは技術者であり、その技術者が働きがいと誇りを見出すには、将来へのビジョンが不可欠です。建設産業の社会的経済的地位向上のためワーク・ライフ・バランスの観点からの活動は素晴らしいことと思います。今後も一層のご尽力をいただけるようお願いいたします。」

国土交通省 総合政策局建設市場整備課  
松本 貴久 労働資材対策官



「先日、日建協主催のワーク・ライフ・バランスセミナーに参加しました。参加者の一人ひとりが講義内容を吸収し、個々に職場で発信していくことで地道に根付かせていこうという意気込みを感じました。また、日建協の統一土曜閉所運動に対する熱意は各労働局に足繫く通っていただいたことにより行政サイドにも如実に伝わっています。若手技術者の育成や建設業の魅力化の一層の推進のために、出来る限り協力させていただきたいと思っております。」

厚生労働省職業安定局  
志村 幸久 建設・港湾対策室長



「昨年、内閣府で推進しているカエルジャパンキャンペーンのデザインを統一土曜閉所運動のポスターに使用したいとの相談が日建協からあり、内閣府に何度も来ていただきました。建設産業の労働環境向上への熱意ある思いを伝えていただくとともに、産業内の状況について詳細な情報交換を行っています。建設産業も取り巻く環境は依然として厳しいですが、「仕事と生活の調和」に向けた取り組みのスピードを緩めてはいけません。「仕事と生活の調和」の実現に向けた活動は、建設産業の持続的発展につながる未来への投資です。これまでの真摯な取組みに敬意を表するとともに、今後もご協力していきます。」

内閣府 仕事と生活の調和推進室  
小島 武彦 政策調査員



「厳しい情勢のなか、労働運動の本来の意味を見直す時期に来ており、今後労働組合の果たすべき責任は大きくなると思います。全ての人々への働く機会の創出、福祉型社会の創造と健全な発展のための協働活動を行っていきましょう。今こそ産業内の大同団結の必要性を感じます。歴史的な転換点にあるなかで、魅力と活力に溢れる建設産業を目指し、これからの労働運動のあり方を一緒に協議していきましょう。私たち一人ひとりが主役です。」

建設連合 小川 末廣 中央執行委員長



「建設産労懇」を代表して小川氏が挨拶。他に建設産労懇から来賓としてご臨席いただいたのは(写真右から)全電工労連野崎 浩二 議長、道路建設産業労働組合協議会松本 見 議長、長谷工グループ労働組合久井 俊樹 中央執行委員長



「連合は「平和・幸せ・道開く」「力と政策」という二つのスローガンを掲げて活動しています。力というのは政策実現への結集力です。日本再生のためには厚い中間層が必要であり、また労働組合という存在が必要です。今こそ組合の存在意義が問われています。連合と今後のビジョンを作り上げていきましょう。」

連合(日本労働組合総連合会)  
木村 裕士 総合企画局長



「ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて活動を推進していくことは大変ですが、建設産業で働く人々の社会的・経済的地位向上に向けて、お互い協力しながら頑張りましょう。福島新議長のもと、執行部が一枚岩となつてのこれからの活動に期待します。」

社団法人日本建設業団体連合会  
福田 雄一 常務理事



「私たちは日本のインフラを支える大切な産業の一員であり、社会の下部構造を担っています。言わば足腰にあたる部分であり、そこがしっかりしていないと社会は崩壊してしまいます。私たちが社会を支えているということを忘れずに、苦しい道のりかもしれませんが一緒に頑張っていきたいと思います。」

財団法人リバーフロント整備センター  
竹村 公太郎 理事長



「ドイツでは産業別労働組合が政策や意見をとりまとめて、政府や企業に対して発言をする環境が出来ています。それに比べ、個別企業の労働組合が中心となっている日本の労働組織はまだまだまだと言えますが、未成熟ななかで先ず取り組むべきは、技術集団としてこれからも技術を残生かしていくような闘いです。私たち林業もまた同じ技術集団です。そういう意味での連帯により、共に頑張りたいと思います。」

国際建設林業労働組合連盟 日本加盟組合協議会(BWI-JAC)  
河田 伸夫 議長



# 2009年度の活動にこめる想い

**広報:** 日建協第86回定期大会をスタートとして、いよいよ2009年度の活動が幕を開けました。今回は、2008年度をもって退任された青本前議長と2009年度より日建協の新たな舵取り役となった福島新議長でこれからの日建協活動について語っていただきたく対談を企画しました。まずは2009年度の日建協を牽引していく福島新議長にこれからの意気込みをお聞きしたいと思います。

## ●意識を変え、声を上げていこう

**福島:** 現在、日建協では「無報酬業務の解消」(※P8~P11参照)を提言していますが、経験上、私自身も肌身で感じていることです。最近では作業所に求められるものの全てが増えていくばかりです。効率化するための「工夫」はしているのですが、



福島新議長

私たちが請負側にも「やりますよ」という意識が強い。しかし、そういう環境下で仕事を続けてしまうと、特に若い職員は「これは誰の仕事なのか?」という疑問すら持てず、結果、全てを抱えきれず離職してしまう。若手に限らず諸先輩方も、みんな単純に「もの作り」が好きでこの産業に入ったと思うんですよね。その「大きいものを作りたい」という気持ちや「この産業が好きだ」という思いが業務の明確化されていない大量の書類作成によって隠されていき、離職につながっていく。「辞める前に思いを言ってもらえなかった悲しさ」をこちら側は感じます。産業や労働環境に対して思うことがあるなら、黙らずに、皆さん一人ひとりが自分の意識を変えて、どうかそれを言ってほしい。そしてそれが言い放して終わることがないよう組合は拾い上げてほしい。それが個々の加盟組合で解決できない問題であれば日建協が拾い上げます。そういう意味で皆さんと連帯していけば、きっと大きな流れになるのではないのでしょうか。

## ●連帯を考える



青本前議長

青本: 今、「連帯」という言葉ができましたが、私は議長就任からしばらくの間「連帯」という言葉の意味について考えていたんですね。背景として社会は個人の意識の多様化傾向で、「連帯」とは逆の流れにあった。当然ながら、賃金交渉や統一土曜閉所運動は連帯による相乗効果を狙っているし良い結果も導きやすいのですが、この一年で得た自分なりの連帯に対する回答は「必ずしも必要な全てではない」ということです。例えば、現在の日建協は時短推進活動をワークライフバランスの一環として位置付けています。かつての時短推進活

動は『過重労働にある人達に平等に時短を押し進める』というものでした。一方、ワークライフバランスは組合員一人ひとりの個人化に沿った考え方で、多様性を重視するものです。それに沿って考えれば、個人によって連帯の意味合いもまた変わってきます。今の社会風潮に合った連帯とその本質は一体何なのかということを考える必要があるでしょうね。

**福島:** 私の考える「連帯」も青本前議長の考える「連帯」と同様です。「ハチマキ」「コブシ」のような由来からのイメージを引きずるものではない。ワークライフバランスの観点から考えれば今の時代にマッチングした連帯があるべきで、それは個人の行動を確立するための連帯であり、創造していく過程での連帯だと考えます。何から何まで、全てにおいて「連帯」とは思っていません。実は先日も青本前議長と雑談中に「旧来からの「連帯」に変わる新しい言葉を作っちゃおうか」と話したことがありましたね(笑)

**青本:** イデオロギーの転換は難しいですが、言葉はリニューアルできるし、手段を変えていくことはさほど難しいことではありません。従来のやり方での連帯では社会の流れと乖離していくでしょうね。

## ●ワークライフバランス実現にむかって

**広報:** 2009年度の日建協は「変わる意識と変える努力で実現させようワークライフバランス」というスローガンを掲げています。なかでも「変わる意識と変える努力」はワークライフバランス実現への重要なキーワードだと思いますが?

**青本:** ワークライフバランスは個人が充実感を引き出すことですが、それを仕事から持ってくる人もいるし、生活から持ってくる人もいます。ただどちらに偏っても駄目なことは時短アンケートによって数値でもハッキリしているし、バランスはその人自身にしか判断できない。『ワークとライフのバランスから充実の最大化を自分自身が考えること』は過去になかった考え方です。「仕事は何時間だと充実するのか?」自分自身で最適化へ向けて考えるのです。自分が描いたバランスに向けて動くのです。思考し行動する。ワークライフバランスは一人ひとりの変わる意識と変える努力があって初めて実現できるのです。

**福島:** 「変わる意識」というのは「自分が」ということですよ。作業所ではそんなことを考える時間すらないというのが現実でしょうし、これまでの業界の「慣習」や「しきたり」と考え、思っても実際の行動に起こせないという方もいるでしょう。やはりそこは自分自身が意識して変えていかなければワークライフバランスの実現には結びついていかない。

## 新旧議長対談

それにはやはり努力というものがが必要です。変わる意識と変える努力というのは不可分なペアだと思います。

**青本:** また「変える努力」というのは「変わる意識」を「産業全体へ広げていこう」ということでもあります。建設産業は発注者が上位であるように考えてしまい、言えることがあるにもかかわらず我慢してきた。それはどこか弱者的な意識があるのかもしれない。しかし産業そのものがワークライフバランスを確立するためには、その弱者的な意識を変えていく必要があります。「変える努力」「変わる意識」という言葉には産業全体のワークライフバランス実現への願いもまた込められていると思います。



想いは受け継がれ未来へと続いていく

## ●21世紀型の働き方をめざして

**福島:** 社会意識の変化という後押しで、現在は自分にとってのワークライフバランスを考えやすい状況下にあると思います。ただ考える人がまだ一握りの人たちに過ぎない。今後はこれまでそういうことを考えてこなかった人たちに対し、考える環境の提供が必要になってきます。ワークライフバランスという言葉もよく聞かれる言葉になり、一人ひとりが自分にとってのワークライフバランスについて考え動く契機を掴める所までできています。今度はその掴む手をださしたい。現在は双葉がただけの状態ですから、枯れて土に埋もれてしまう前に、太陽に当てて大きな樹に育てていくのがこれからの日建協の役割だと考えます。

色々な機会に同様の話をさせてもらっていますが、私が思い描く21世紀とは、さまざまな形の超高層ビルが建ち並び、車が空を飛び、緑豊かで自然と共存する漫画のような未来都市です。実現できるものと実現できないものは確かにありますが、決してあり得ない話ではありません。「心と体にゆとりを持った」21世紀型の働き方もまた夢ではないはずです。好きじゃないですか。やはりこの産業が、楽しく建物を造れるような方向へ向かっていきたいと思えますよね。

**広報:** 2009年度の日建協執行部もワークライフバランスを軸に、働きがい・産業としての魅力・労働条件の向上を目指し活動してまいります。加盟組合の皆さん、よろしくお願いたします。

## 退任役員挨拶

あおもと けんご

青本 健吾 前議長  
シミズユニオン



退任するまでの3年間を振り返りますと、様々な喜怒哀楽があったことが思い出されます。建設産業の姿がめまぐるしく変化を遂げていくなか、これまで一組織の長として様々な活動を進めてきたことは私自身にとって、まさに「2度目の青春時代」の如く、熱く、一生懸命になれた「ひととき」であったように感じられます。

日建協活動は私自身に一企業の枠内にいたならば思考が及ばない「建設産業のホンネ」を数多く実感させてくれました。これから職場に戻ってもここで授かったものを積極的に活用し、微力ながら建設産業、そして自分自身の発展に貢献していきたいと思えます。

またどこかでお逢いしましょう。See You!!

さとう みちお

佐藤 道男  
前副議長兼政策企画局長  
フジタ職員組合



皆様3年間お世話になりました。その中で、私たちの働き方が他産業と大きく違うことを知り、改善していくための活動をしてきました。WLB実現にむけ世間は動いており、最後には官庁や経営者団体も労働条件改善に向けた動きを起し始めています。

しかし、いざ現場に戻ってみると3年前と比べると変わっていませんでした。労働時間は長く、心無い苦情をもらい…。日建協活動は一朝一夕には結果が出ませんが、労働環境の改善、産業のイメージアップに向け、声を上げることができる団体として活動を継続してください。いつの日か世間並みの労働条件になるよう期待しています。

はやし あつし

林 厚至  
前政策企画局長  
ベントユニオン



加盟組合員の皆さん、二年間お世話になりました。私は賃金と時短を主に担当させてもらいました。この二年で、賃金は理想と現実のギャップが更に開きつつある厳しい状況となりましたが、時短については、そのギャップがワークライフバランスの名のもとに少しずつですが解消されはじめてることを感じました。2009年度はこの流れを更に加速させるために、福島新議長を中心によりよい産業を目指して精力的な活動を期待しています!そして、私も一組合員として応援させていただきます!

# 一步前進、さらに前進

## ～公共工事における無報酬業務解消にむけて～

作業所で働く人なら、設計図書を修正したり、設計変更の時に数量計算書を作ったりしたこと、ありますよね。

このような業務、本来、発注者が行う業務であり、私たちが行うものではありません。

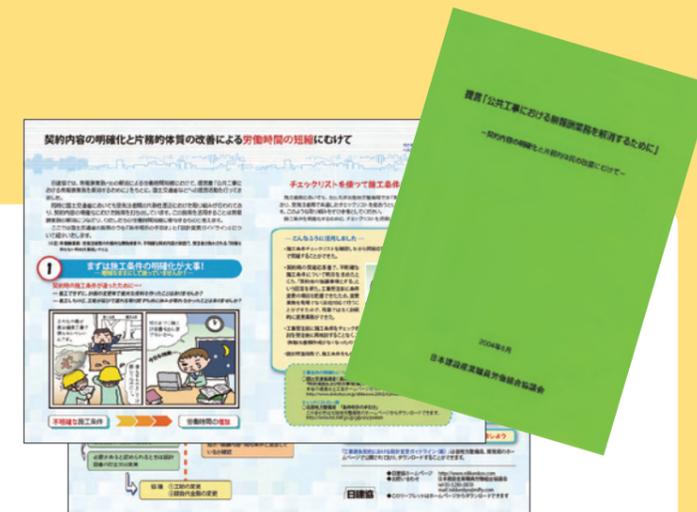
でも、「昔からやっていたから」とか「どちらが行うものか良くわからないので、こちらがやっている」といった理由で、私たち受注者が行っている現状、ありませんか。

そして、発注者からこういう業務をやってほしいと頼まれたら断りにくい、という意識(片務性)も、私たちの中にあると思います。日建協では、このような業務に割く労働時間を「無報酬業務」と名づけ、その解消を目指して活動をしてきました。

これまで、国土交通省との直接対話などで改善を訴えるなどの活動をしてきましたが、抜本的な改善に繋がって

いないのが現状でした。しかし**2009年4月、無報酬業務を取り巻く環境を大きく変化させ、解消に一役買ってくださうな施策を国土交通省が打ち出しました。無報酬業務を解消するこのチャンス、これから私たちが何をすれば良いか、一緒に考えてみましょう。**

それではまず、日建協がこれまでおこなってきた無報酬業務の解消にむけた活動を、振り返ってみましょう。



### 無報酬業務解消にむけた歩み (※は、無報酬業務の解消にむけて、日建協が有効と考える国土交通省の各施策です)

#### ◆無報酬業務解消にむけた取り組みスタート

提言書「公共工事における無報酬業務を解消するために」を策定しました。

##### ◎国土交通省の動向

北陸地方整備局で、「**条件明示の手引き**」※、関東地方整備局で、「**設計変更ガイドライン**」※が作成される。

##### ●組合員の現状

外勤者の平均所定外労働時間は月77.7時間

#### ◆国土交通省地方整備局へ提言活動を開始

意見交換会、アンケート、ヒアリングから得られた無報酬業務の実態をもとに、現状の理解と日建協の主張に対する発注者の意見を聞き出すため、提言活動を実施しました。

##### ◎国土交通省の動向

各地方整備局で、次々と「**設計変更ガイドライン**」が作成される。

##### ●組合員の現状

外勤者の平均所定外労働時間は月82.5時間



地方整備局への提言活動

#### ◆改善提案書を作成し、全地方整備局への提言活動を実施

2007作業所アンケートをもとに、国土交通省の施策を有効活用し、無報酬業務の解消に繋げる観点での「改善提案書」を作成し、提言活動を実施しました。

##### ◎国土交通省の動向

全地方整備局で、「**設計変更ガイドライン**」が整備される。

##### ●組合員の現状

「無報酬業務を行っている」割合は61%  
外勤者の平均所定外労働時間は月83.9時間

2004年

2005年

2006年

2007年

2008年

2009年

#### ◆発注者側労働組合(国土交通省職員組合、自治労など)と意見交換会を実施

日建協の主張に対する意見収集、ならびに無報酬業務の実態とその要因について共通認識を深めるために、意見交換を実施しました。

##### ◎国土交通省の動向

中部地整ならびに北海道開発局で、「**設計図書の照査ガイドライン**」※が作成される。  
全地方整備局で「**三者会議**」※の試行を開始。

##### ●組合員の現状

外勤者の平均所定外労働時間は月82.9時間  
「無報酬業務が負担となっている」との回答が62%



国土交通省職員組合との意見交換

#### ◆アンケート調査を実施

国土交通省直轄工事業所において、国土交通省の各施策に関する運用状況の確認と無報酬業務の現状について把握するために、アンケートを実施しました。

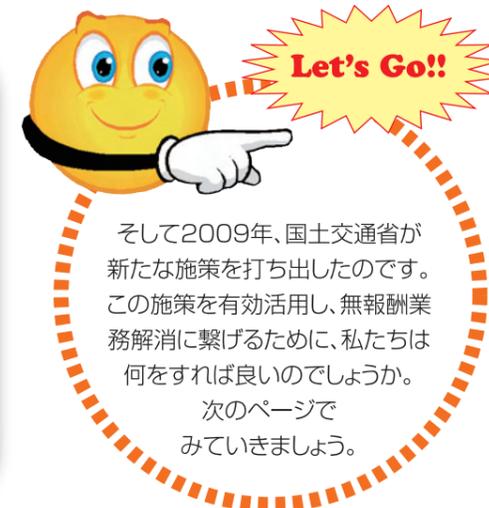
⇒設計変更ガイドラインなどの施策は、設計変更の責任区分の明確化、片務性の解消に繋がる施策であると判断し、改善提案書の作成に着手

##### ◎国土交通省の動向

全地方整備局に対し、「**ワンデーレスポンスの実施**」※が周知される。

##### ●組合員の現状

「無報酬業務を行っている」割合は55%  
外勤者の平均所定外労働時間は月79.7時間



そして2009年、国土交通省が新たな施策を打ち出したのです。この施策を有効活用し、無報酬業務解消に繋げるために、私たちは何をすれば良いのでしょうか。  
次のページでみていきましょう。

2009年、「無報酬業務」を取り巻く環境に変化がおきました。



どんな変化かというと…



「設計変更ガイドライン、工事一時中止ガイドラインを順守」するよう特記仕様書に記載されることになりました。

2009年4月より、国土交通省直轄工事において、「設計変更ガイドラインと工事一時中止ガイドラインに基づき、適切に処理する」ことを特記仕様書に記載することになりました。日建協としては、この対策が無報酬業務を取り巻く環境を大きく変化させ、解消への一助となるものと期待しています。



設計変更ガイドラインって？



「設計変更ガイドライン」には、設計変更業務の受発注者の業務分担が記載されています。

設計変更ガイドラインには、設計変更が認められる場合、認められない場合を具体的に示しているほか、設計変更業務の受発注者の責任区分が記載されています。無報酬業務の原因である「どちらが行う業務かわからない」業務の解消に繋がります。



特記仕様書に記載されると何が変わる？



受発注者双方に、「設計変更ガイドライン」が浸透します。また、設計図書として運用されることになります。

ガイドラインを活用するためには、受発注者のそれぞれが存在と内容を知ることが必要不可欠です。受発注者が最も目にする機会の多い設計図書の一つである特記仕様書に記載がなされることによって、更なる周知に繋がります。

また設計図書として扱われることで、ガイドラインを守ることが契約事項となります。従って、受発注者の業務分担を順守せず、「無報酬業務」を行うことは契約違反となります。



でもやっぱり発注者に声を上げるのは…



国土交通省も問題意識を持っています。

国土交通省は、片務性や契約における不明確な部分の解消を自ら取り組むべき課題と認識しています。特記仕様書への記載も日建協が国土交通省に要請をしていたことでもあり、これが実現したのも片務性の解消を図るという姿勢を国土省が示したものです。

発注者から「無報酬業務」を依頼されたら、こんな対応をしてください

ステップ 1

工事の特記仕様書を確認してください。

設計変更の際は「設計変更ガイドラインを参考に、適切に処理すること」と記載していませんか。

ステップ 2

設計変更ガイドラインを確認してください。

設計変更ガイドラインの内容を確認してください。設計変更ガイドラインは、各地方整備局のホームページに掲載されています。そして、このガイドラインには、設計変更業務の受発注者の責任区分が明確に示されています。

ステップ 3

発注者に設計変更ガイドラインを示し、コミュニケーションをはかってください。

設計変更ガイドラインに記載されている、受発注者間の責任区分を発注者に示し、話し合いましょう。

国土交通省では、設計変更ガイドラインのほかにも、円滑な現場施工に繋がる施策を出していますので紹介します。ぜひこの施策を知り、うまく活用していきましょう。

\*ワンデーレスポンス

受注者からの質問を受け付けた際に、即日に回答、あるいは回答期限を設定する施策です。対象工事の場合、特記仕様書に「ワンデーレスポンス対象工事とする」という記載がありますが、今年度中に全ての地方整備局の工事に適用される予定です。

\*三者会議

発注者、施工者、設計者が一同に介し、設計思想や施工上の問題点を共有する会議。今年度から適用範囲が拡大されていく予定です。

このように、受注者が声を上げられる環境を、国土交通省が整えています。また、私たちの経営者の集まりである業界団体も、国土交通省に対し、発注者の責任区分の業務を受注者に行わせないよう要請をしています。

あとは私たち最前線で働く組合員が声を上げることで、無報酬業務の解消、そして片務性の解消に繋がっていくのです。

※イラスト工房の素材を一部で使用しています。

## 大日本土木労働組合

### 提言の実現にむけて、ともに取り組もう!

大日本労働組勉強会 於:大日本土木 東京本社会議室(2009.7.11)

大日本土木労働組合中央執行委員会において、日建協活動勉強会&意見交換会が開催されました。

今回の勉強会では、日建協執行部より、日建協活動の二本柱のひとつである産業政策活動について、提言内容の概要と活動状況について説明し、それに対しての意見交換を行いました。

提言「公共工事における無報酬業務を解消するために」(Compass今月号P8~P11参照)では、これまで日建協が国土交通省に対し提言してきた「無報酬業務に起因する長時間労働を解消するためには、受発注者間での片務的な体質の改善や契約の明確化が不可欠であり、そのためには国交省で策定されている設計変更ガイドラインなどの周知徹底が必要」ということに対し、今年度からの国交省直轄工事において設計変更ガイドラインを順守することが、特記仕様書に記載されることになるなど、提言の実現に向けて一歩前進したことを説明しました。それに対し、「特記仕様書に設計変更ガイドラインが記載され周知されることは、ひ



勉強会の様子

とつの成果であるが、受注者側で設計変更業務を利益創出の方法と捉え自ら実施しているケースもあり、受注者側の意識も変えないと、それを無報酬業務に起因する長時間労働の削減につなげることは難しいのではないかと「特記仕様書への記載だけでなく、実際の工事現場での受発注者それぞれの担当者への教育が必要である」といった意見が出されました。これらの意見については日建協本部でも同様に感じている部分であり、今後、外部への提言活動と同時に、加盟組合内にもむけて受注者側の意識改革、最前線の作業所までの施策の浸透に関する取り組みも進めていきます。

## 飛鳥建設労働組合

### 日建協活動を、直接対話で伝えたい

飛鳥建設労働組合勉強会 於:芝パークホテル(2009.7.11)

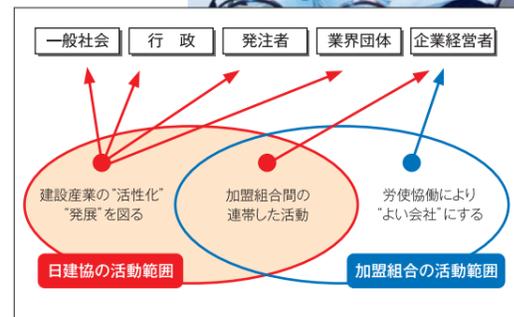
飛鳥建設労働組合の第1回中央委員会/支部長・書記長会議において、笠原委員長をはじめとする本部執行委員9名、中央委員5名と支部代表者14名が参加し、日建協活動勉強会が開催されました。

前半では、参加者の約半数の方が新役員であることを踏まえ、日建協活動の概要を基本から幅広く説明しました。また、産業別労働組合である日建協と企業別労働組合との活動範囲の違いをベン図で表し、単独の企業別組合では取り組めない産業構造的な課題に対する活動のみならず、加盟組合の活動支援的要素を多分に含んだ日建協活動は、加盟組合活動とともにあることを理解していただきました。

後半では、特に要望のあったワーク・ライフ・バランスについて、内閣府「仕事と生活の調和推進室」監修のワーク・ライフ・バランスを考えるきっかけになる本をもとに、時短アンケート結果を交え建設業の現状を再確認しながら、ポイントとなる部分について説明を行いました。昨年度、日建協の主催したワーク・ライフ・バランスセミナーにも参加した役員の方から、「ワーク・ライフ・バランスの考え方については理解できるが、建設産業においては実現が難しいと感じる。」との意見がありましたが、「自発的な“働き方の見直し”や“働きかたの見直し”を通じて、考え方や理解を浸透させていく



中央委員/支部代表者の皆さん



日建協と加盟組合の活動範囲と働きかけ先

ことが大切。個々人が意識して行動することで長時間労働の削減やワーク・ライフ・バランスの実現に近づいていくのではないかと呼び掛けました。

日頃から、日建協活動がなかなか見えにくいという意見に応えるためにも、今後もこういった勉強会を通じて、加盟組合の皆さんとの直接対話での意見交換の機会をどんどん増やしていきます。

## 大和小田急建設労働組合

### 新たな発想から、新たな可能性へ

シムシティ勉強会 於:富山ライトレール(2009.6.6~7)

『業務改善提案』『付箋紙を利用した労使交渉』等々、従来からの組合活動内容にとらわれることなく自由な発想で独自の活動を続ける大和小田急建設労働組合ですが、今回は、赤字路線を様々な工夫で復活させると同時に『街』を甦らせた公共事業の成功例を実際に見学した時の報告です。「シムシティ勉強会」と名付けられたこの活動には日建協からも中村副議長が参加しました。大和小田急建設労働組合の原書記長に語っていただきます。

定期大会を受けて展開したオルグでは、当社の“強み”を活かし、さらに発展するには、『新たな発想から、新たな可能性』を探る必要があるとの声が多く寄せられました。そこで、3年後、5年後、そして10年後に飛躍するための種を一人ひとりの心に蒔くための活動が必要であるとの想いから「シムシティ勉強会」を開催する事にしました。

今回は、赤字路線のため廃線になりそうだったJR富山港線を「コンパクトシティの実現」という考えのもと、見事に復活させ、成功した公共事業の実例【ライトレール】の現状について、自分たちの目で、足で、耳で情報を集め、社会問題・地域が抱える課題と併せて考えるとともに、その全ての情報を如何に自分達の仕事に繋がられるか考えられるような



熱心に話を聴く参加者の方々

参加者の笑顔が勉強会の充実した内容を物語っています

勉強会を、ゲーム感覚を織り交ぜながら“楽しく”学べるように工夫しました。

富山までの新幹線の中では、択一式の「車内クイズ」50問をチームでチャレンジしてもらい、地域活性化、都市開発、バリアフリーなどのキーワードを心に刻んでから、コンパクトシティを一から実践して来られた富山市交通政策課長や、再開発組合を立ち上げ実を結んだ総曲輪(そうがわ)フェリオ社長の講演を拝聴し、意見交換をしてきました。

また、オリエンテーションを兼ねて街を歩くなかで、偶然の出会いから、清酒「満寿泉」の酒造元である枳田酒店の4代目からも「街おこし」について熱い想いを聴く事が出来ました。

時代の変化をより機敏に感じ取り、我々の得意分野と繋げ合わせ、如何に貢献していくか?そのアンテナは誰でも持つ事が出来るし、もっと敏感にする事も出来ます。この勉強会に参加したメンバーだけでなく、少しでも繋がりをもった一人ひとりが、さらに大きく飛躍出来るようにとの想いと共に勉強会を報告します。

大和小田急建設労働組合 書記長 原 伸治郎

## 大鉄工業労働組合

### 節目を更なるステップとして

組合結成60周年記念式典 於:ホテルグランヴィア大阪(2009.8.22)

大鉄工業労働組合が組合発足60周年を迎えられ、日建協から福島議長が記念式典に招かれました。日建協の仲間として心よりお祝いするとともに今後ますますのご活躍を期待します。60周年の節目にあたり、大鉄工業労働組合の山本委員長より寄稿していただきましたので紹介したいと思います。

平成21年8月22日に組合結成60周年記念式典並びに祝賀会をホテルグランヴィア大阪に於いて開催いたしました。

戦後の混乱期に労働者にとって働く権利と自由を主張する新しい時代を作るべく、この労働組合を結成し、多くの困難や働く義務を果たし、会社と共に60年という歩みを止めることなく現在組合がここにあるのは、諸先輩方のたゆまぬ努力、そして時代を一步步歩いてきた成果だと言えます。諸先輩方に心から敬意を表するとともに、これからはこの歩みを更に一歩ずつ重ねて次代へと歩んでいこうと執行部一同決意を新たにいたしました。

式典の様子



和やかな祝賀会



大鉄工業労働組合執行部

式典後開催した祝賀会では、過去10年の執行部三役OBを交え、来賓の皆様方と共に過ごす時間は、あっという間で、60周年の節目を更なるステップとして、これからの組合員や家族の幸せ、また会社の発展と稔りある組合活動が出来るように祈念し閉会しました。

最後に式典にご参加いただきました森竹社長をはじめとする会社幹部、また、日建協の福島議長、四鉄職労組(※鉄建、東鉄、名工、大鉄)の委員長、書記長、来賓の皆様、そしてご祝電等いただきました各単組の皆様にご挨拶申し上げます。

大鉄工業労働組合 執行委員長 山本 一史

## 日建協のエコキャップ運動

日建協では、産別組織としての社会的責任と連帯活動の一環として、例年、社会貢献活動を実施していますが、昨年度(2008年度)は「NPO法人エコキャップ推進協会」の活動に参加し、「日建協のエコキャップ運動」として取り組みました。活動の内容は、収集したペットボトルのキャップを再資源化による換金により、発展途上国の子供たちが必要とするワクチンを提供するというものです。日建協では、この活動について産別組織ならではのスケールメリットが期待できるものと判断し、今年の4月から加盟組合執行部を通じ運動への協力をお願いしてきました。

収集方法は、「加盟組合が収集業者と直接キャップのやり取りを行う」「加盟組合で収集したキャップを、日建協本部へ送付し、日建協が収集業者と直接キャップのやり取りを行う」という2通りの方法で、日建協本部に郵送されたペットボトルのキャップだけでも15,095個を数えました。(6月末現在)

現在、この活動に参加した加盟組合の全てのキャップ数を集計中です。

この記事を目にした加盟組合の方で「運動に参加したい!」という方は、日建協本部までペットボトルのキャップをご送付ください。ぜひお待ちしております。



ご協力、本当にどうもありがとうございます!



エコキャップ運動広報ピラ

## 2009年度の

## 第1次募集期間の締め切りは目前です!!

### 2009年9月18日

総合医療サポート制度を含む、日建協共済制度の加入者募集締め切りが直前に近づいています。

#### 「日建協の共済制度ってなあに?」

日建協が運営している保険制度の総称です。加盟組合員の皆さんの福利厚生の実現を目的として運営されています。加入者が増えればそれだけ掛け金も下がる、産別組織ならではのスケールメリットを活かした制度です。

#### 「どんな種類があるの?」

ゆとりある老後の生活に向けた「**積立年金制度**」、万が一のケガや病気に備えるための「**総合医療サポート制度**」、三大疾病(ガン・心筋梗塞・脳卒中)に対する闘病資金「**職場復帰サポート制度**」の3つの保険を扱っています。

#### 「ズバリ!お勧めの制度は?」

どの制度も加盟組合員の皆さんに自信を持ってお勧めできますが、なかでも「**総合医療サポート制度**」は次の3点が優れており、お勧めできます。

- その1:一泊二日の入院から日額5,000円給付されます。(5,000円コース加入者)
- その2:三大疾病(がん・急性心筋梗塞・脳卒中)による疾病は**倍額給付&支払日数無制限**
- その3:**加盟組合員だけでなく配偶者も加入できる!**そして女性に優しい!女性特有の疾病による入院・手術は**支給額上乘せの大型給付**  
※ 配偶者のみのお申し込みはできません



いかがですか? Compassをご覧ください。あなたが今が第1次募集の締め切りに駆け込むチャンスです。

↑こちらが共済制度の加入案内パンフレットです。ご希望の方は、ご自身の組合本部へお問い合わせいただくか、直接、日建協本部までご連絡ください。

日建協連絡先  
TEL: 03(5285)3870 (担当:八木)  
E-mail: nikkenkyo@nifty.com

## クロスワードタイム

今回は花粉の季節でしたが、もう朝晩は秋の気配を感じるようになりました。夏ばてもせず元気に過ごされたでしょうか。久々のクロスをお楽しみください。二重枠の言葉を並び替えると答えが出ます。答え、郵便番号、住所、氏名、組合名、Compassの感想を記入し、はがきかメールでご応募ください。正解者の中から抽選で30名様に千円分のクオークカードを贈呈します。

■メ切:10月5日(月) ■宛先:〒169-0075 新宿区高田馬場1-31-16 守山ビル3階 日建協クロスワード係 (Mailはこちらへnikkenkyo@nifty.com)

ヒント:1986年(昭和61年)9月、ある協会の会合で、この良さをアピールするために9月18日に制定された記念日です。

1	2	3	4	5	6	7	8
9						10	11
12				13	14		
15		16	17	18			
19	20						
	21			22	23	24	
25	26			27			
28			29				
	30			31			
32			33		34		

### ヨコのカギ

- 「スポーツの秋」「芸術の秋」、そしてもう一つの秋と言えば?
- 陸地と海面との境界線のことです。
- 主君や大名、貴人などの家の敬称。また、他人の家の敬称。
- V6のメンバーの一人、井ノ原快彦の愛称です。
- あることをするための計画やプランを考える部署。
- 地表で、周囲を海で囲まれ、海面より高くなっている部分。
- 1905年、福岡生まれの童謡詩人、童話作家「○○準一」。代表作に「野ゆき山ゆき」や「五十一番目のザボン」などがあります。
- テレビやラジオに職業として出演している芸能人などの総称。
- 何が起るかを前もって知ることのできる力。
- 慈善や被害者救済などの趣旨で、金品を寄付すること。
- 野球などで、攻める方と守る方の交替。
- 学校で教育上の基本的なモットーを定めた、教訓的な内容の言葉。
- ニコチン酸の別称で、ビタミンB3とも言われ、糖質・脂質・タンパク質の代謝に不可欠な物質。
- 昨年、北京オリンピック女子ソフトボールで大活躍した「○○由岐子投手」。
- 家族や仲間など、親しい者がする喧嘩。最近では、政界でもありました。
- ガソリンやベンジンなど、原油を分別蒸留する時に低沸点で得られる油。
- 「海」を英語で言うこと?
- 一般の企業で、社員の労働意欲向上などを目的として作成される歌のこと。
- 雨が風に吹かれて激しく降ること。また、雨のように激しく物が飛んでくること。
- テレホンカードなどに代表されるトレーディングカードの略。

### タテのカギ

- 目で見通すことのできる範囲が好ましい状態であること。
- 日が沈んで間もないころ。また、夜のまだふけてない時分。
- 今月のことです。
- 今年6月、エコポイントの経済効果として経済産業省が試算した金額。
- 無意識に出てしまうような、偏った好みや傾向。性格や気分がのんびりしていること。
- 何かに威圧されて、やろうとする気持ちがくじけること。
- ぬれたり湿ったりしていること。また、情にもろく、感傷的な様子。
- 四字熟語で、無言のうちに心が通じ合うこと。
- 稚魚は煮干し、シラス干しにし、幼魚はごまめにする近海産の海魚。
- 温州ミカン型の欧米系柑橘類のこと。「マン○○」。
- 伊藤左千夫の中編小説のタイトル。政夫と民子の恋愛を感傷的に描いた作品。
- 最近人気のエアレースは、高さ20mの空気で膨らませたこの間を最速タイムで駆け抜けます。
- 人間以外のものを、仮に意志のある人間と見なすこと。
- 庭木の栽培や、造園・手入れなどを職業とする人。
- 「華厳の滝」「袋田の滝」と共に日本三名瀑に数えられる、和歌山県南東部にある「○○の滝」。
- 全くないこと。何も存在しないこと。

## No.781クロスワード 正解と当選

答えは「異動時休暇(イドウジキユウカ)」でした。

イ	シ	ヨ	ク	ジ	ユ	ウ	オ	ギ
キ	ン	ク	カ	ー	ヨ	ウ	ヒ	ン
ア	ジ	ア	ジ	ン	キ	レ	ナ	ガ
タ	ン	サ	ン	コ	ヨ	イ	テ	
リ	ル	コ	ウ	ヤ	ク	ク	ツ	
バ	イ	ヨ	ウ	ド	セ	カ	ン	ド
ツ	ミ	エ	ソ	ツ	ギ	ヨ	ウ	
タイ	セイ	ヨ	ウ	カ	ミ	ノ		
リ	シ	セイ	キ	マ	ツ	ヨ		
キ	ス	イ	コ	イ	コ	ール		

たくさんのご応募ありがとうございました。次の方が当選されました。なお、前号からこの号までの発行期間が長かったため、クオカードは発送済みです。またのご応募をお待ちしております。

柳川 幸(アサマ)、野口直子、細江勇人(安藤)、吉広範光(奥村)、中村英高、宮崎信宏(鴻池)、中島 律(佐藤)、神尾敏光(佐藤秀)、山本 歩、渡辺 薫(銭高)、西村勇二(大日本)、小川雅己、平形和広(大豊)、櫻井博子(鉄建)、川井和樹(東鉄)、岡田 遼(戸田)、萩原由美子(飛鳥)、高木路浩(中山)、長澤久美、中村雄太、服部 享(西松)、近藤 剛(国土コミュ)、福田浩司(野村)、長谷川光正、藤田美恵(フジタ)、中田麻梨子(ペンタ)、糸永新一(松村)、西田 学(丸彦)、松川武靖(名工)、上木戸功太(横河) <敬称略>

## 船

組合員のみなさん最近、ハッピーマンデーなどで祝日が月曜日に移動して連休が増えてきました。昨年、年次有給休暇取得推進カレンダーを作成して気がついたのですが、2009年の9月は敬老の日がハッピーマンデーにより移動する祝日となります。ここで祝日法(1985年)により、その前日及び翌日が「国民の祝日」である日(日曜日にあたる日及び前項に規定する休日にあたる日を除く。)は、休日とする。ということで、土曜日と日曜日を合わせると「9月21日(月)敬老の日」「9月22日(火)国民の休日」「9月23日(水)

秋分の日」と秋の5連休となります。一般には、5月3日の憲法記念日と5月5日のこどもの日に挟まれた5月4日を祝日にするために設けられた規定らしいのですが、特にそれに限定するとは書いてありません。こんなチャンスはなかなかありません!何をしようか今から計画を立てて楽しい秋休みにしましょう。また、計画を立てることで、自らのワーク・ライフ・バランスの実現に向けて、計画的な休暇取得を意識しましょう。ちなみに次の5連休は6年後の2015年の予定です。法律が変わらなければ秋の5連休が楽しみです! 友好

## 編集後記

夏休みも終え、厳しい残暑のなかにもちらほらと秋の気配が漂い始める頃です。皆さん、今年の夏休みはいかが過ごされましたか?ワーク・ライフ・バランスの「ライフ」を充実して過ごせただけでしょうか?

さて、8月3日から4日にかけて開催された第86回定期大会をスタートに、2009年度の日建協の活動が始まりました。大会の様子は今号の4ページから5ページで紹介しましたが、加盟組合より出席された代議員の方々からは、自らの労働環境に対する強い問題意識とそれを「打破せん」という力強い決意がひしひしと感じられました。われわれ日建協本部役員もとても頼もしく思うと同時に、仲間として大いに励まされました。今年度も日建協は、わたしたちのワーク・ライフ・バランスをめざして、「働きがい」「産業としての魅力」「労働条件の向上」へむけて、加盟組合の皆さんのご理解とご協力をいただきながら全力で活動してまいります。加盟組合の皆さん、これからの1年間をどうぞよろしくお願ひいたします。

新生ペンタユニオンを実現しよう ～感じよう!そして、一人ひとりが前向きに、できることからはじめよう!～

# 五洋建設労働組合

五洋建設株式会社は、1896年(明治29年)に広島県呉市で水野組として創設されました。明治時代 海軍工事を中心に各地で港湾土木工事を手がけ、大正時代には『水の土木の水野組』と評価されたことから仕事は全国に広がり、陸上土木工事、建築工事も手がけることとなり、1967年(昭和42年)に 社名を現在の五洋建設株式会社にあらため、海外工事にも注力してきました。

なかでも、1975年～1980年にかけての紅海と地中海を結ぶスエズ運河の増深拡幅工事は、受注総額が1,066億円に上る超大型工事で、五洋の名を一躍世界に広めることとなりました。(プロジェクトXでも紹介されたこの工事についての逸話の数々は五洋建設のHPで詳しく紹介されています。当時の関係者の情熱が胸を打つ、必見のページです。)今回はペンタユニオンこと五洋建設労働組合の紹介です。

- 設立：1946年7月6日
- 組合員数：1,648名(2009年6月30日現在)
- 支部：11支部
- 本部執行委員数：7名(監査含まず)
- 執行委員会：月2回(定例1回含む)



後列左より 玉井中央執行委員、遠藤中央執行委員(日建協派遣)、岩佐中央執行委員、倉本副書記長、中島副書記長  
前列左より 田中中央執行委員、松永中央副執行委員長、長野中央執行委員長、山崎書記長、書記局 内田さん

## 現在特に力を入れて取り組んでいる課題を教えてください。

組合活動の充実を目指すという目標のもと、2007年10月の組織検討委員会から本格的にスタートした「組合員範囲の見直し」に取り組んでいます。職場集会を通じ、組合員の範囲を見直す目的について、協議や非組合員の方々との座談会を開催しましたが、「労働組合とは」といった基本的な部分を再認識するきっかけになりました。新生ペンタユニオンの実現を目指し、鋭意取り組んでいます。



長野委員長



山崎書記長

## 取り組みのきっかけは組織率の問題だったのでしょうか?

確かに取り組むきっかけになったのは組織率の問題でしたが、取り組むうちに、「問題は単に組織率だけではない」と思うようになりました。現在、社員全体の層が三極化の状態にあります。経営者層、中間層、そして若い組合員層です。会社を実際に引っ張っている中間層が、現在の制度では非組合員になっている。そういった会社全体にとって大切な層の意見や会社に対する思いが吸い上げられない点、『働く側の総意で物事がまわっていない』状態にあることが組織率低下の大きな弊害であると考えようになりました。みんなで会社のことを考えられない体制ですからね。その点を理解していただくとともに、趣旨に賛同していただき、現在組合を卒業された方々に、もう一度組合に入っていただくための活動をしています。これは当然ながら対象の方々の納得度や組合に対する気持ちの盛り上がりが無いといけませんし、働きかけるこちら側としても組織的に取り組まないと達成できません。支部も含めた組合全体というところに立ち戻って、しっかりした取り組みの必要があるので、そういう意味では「本来あるべき組合活動」に焦点を当てた活動にも繋がっていると思います。



書記局 内田さん

## 「ワーク・ライフ・バランス」について、どのようにお考えですか?

ペンタユニオンでは、今期の活動基調の全体テーマに、“ワーク・ライフ・バランス”を掲げ、活動基調の根本、拠り所となる考えとして捉えています。職場集会でも話しているのですが、ワーク・ライフ・バランスは一人ひとりの基準は異なってもお互いのワーク・ライフ・バランスを尊重しあう事が何より必要であると思っています。実は去年までは「仕事と生活」という表現にしていたんですね。お題目先行のイメージを避けるためだったのですが、最近になってようやく理解されてきた。そこで今年度は『ペンタユニオンが目指すワーク・ライフ・バランス』を定義してみました。



倉本副書記長



中島副書記長

### ●ペンタユニオンが目指すワーク・ライフ・バランス

組合員一人ひとりが、「仕事と生活の調和」を考え、お互いの価値観を尊重し合う風土の中で、組織や社会と協調しながら、その能力を十分に発揮することで、「豊かな生活」と「働きがいのある会社」を実現させること。

この定義というのは、もともとあった当ユニオンの基本理念と内容は同じなんです。ただ、このワーク・ライフ・バランスの定義を、理念と活動方針の間に挟むことによって、より組合の考え方を身近に考えてもらえるようになったと思います。今後は、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて、組合員アンケートなどを駆使しながら活動を展開していきたいと考えています。

「ワーク・ライフ・バランスの実践が単組だけでなく、建設業全体として対外的に認知されることが産業の魅力化に向けた取り組みとして最短だと思います。日建協出前講座などの建設業の意義と必要性を周知広報する活動の充実とともに、ワーク・ライフ・バランスが実現できる業界である事が広まる事が重要です。」と語るペンタユニオンは、出前講座にも積極的に講師を派遣するほか、職種別会議にも委員を派遣するなど、日建協活動に対し常日頃から貢献していただいております。お忙しいなかでの取材協力、どうもありがとうございました。